

第3次稲敷市総合計画策定支援業務 第2回審議会での主なご意見

①基本構想について

(1)基本理念・将来像について

- ・副題があるので、新たなステージへという意味も伝わる。
- ・将来像は全体的に抽象的な表現になっていてよい。

(2)将来指標について

- ・今後思い切った施策を取って、急激に持ち上げていくのか。
- ・2060年に2万人をキープするためのベースをつくる期間の部分についても書くべき。
- ・人口を増やす、維持することが全てではなく、1.4万人でも、市民の幸福度が増すことを考えては。桜川地区では人口が集中していないところの人が笑っている。「幸せとは」をもう一度考えてみては。

(3)土地利用構想について

- ・土地利用構想図は、これまでの内容はよくわかるが、将来的につながるもの、今後重点的に行っていくものが読み取りにくい。
- ・土地利用計画が外向きである（市外に向いている）ことは斬新。時間の感覚も示せるといい。

(4)施策の大綱について

- ・基本理念からの流れが分かる施策の順番がよい。今の順番では分かりにくい。
- ・基本構想との整合性はしっかりしておくべき。

②重点プロジェクト骨子案について

- ・重点プロジェクトのワーキングチームのテーマで、「地域への愛着」「災害」などチーム別で重複している。チーム間の協議が必要ではないか。
- ・横断的な視点は重要。
- ・例えば（将来人口につながる）出生率を上げられるか。子育て家族の居住整備（P7 取組2）は具体的に改善するようスピードアップするべき。
- ・アンケート結果から、地域に対しての印象が良くない。これに対して「地元食材を学校給食」に力を入れるべき。食育についても重点プロジェクトに入れてほしい。シティプロモーションでは、よく地元食材を扱っている。食に気がつく、市民の評価はもう少し上げられる。
- ・給食では地産地消してほしい。
- ・①雇用・産業プロジェクト 取組3 職人さんなど後継者がいなくなっている。店舗の閉店も相次いでいる。事業承継につながることは必要。